

# アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面～3面 全国縦断学習講演会
- 4～5面 いま世界は！ 8
- 6面 5・24 シンポジウム
- 7面 列島 AALA
- 8面 列島 AALA・私と AALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2015年3月1日 No.656

## 半世紀におよぶ孤立化政策が破綻 アメリカとキューバ国交正常化へ



両国代表团（グランマより）

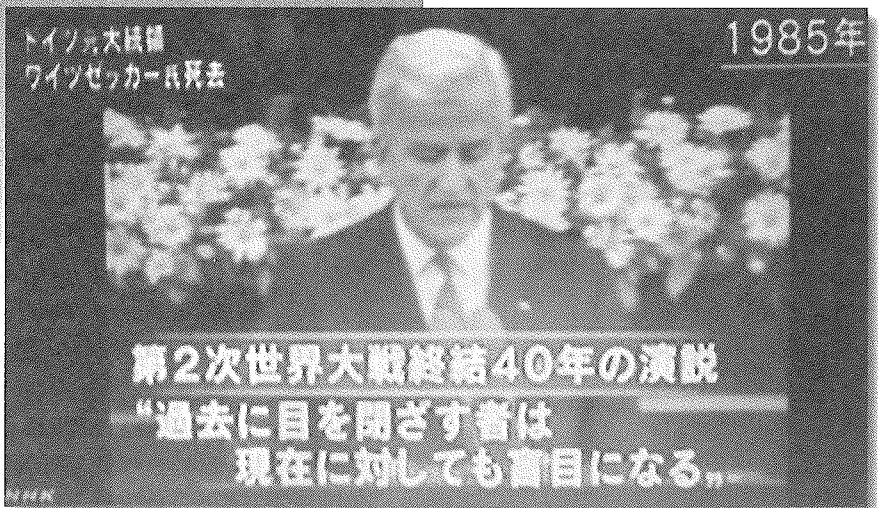
昨年12月17日、アメリカとキューバ政府は、国交正常化交渉を開始すると発表しました。

オバマ大統領は声明のなかで「過去50年以上のあいだで最も重要な政策変更」「時代遅れの政策を

終わらせる」「孤立化政策は機能しなかった」「硬直した政策は両国民に役立っていない」など、敵視政策の破綻を認めました。

\*関連記事は4ページに掲載

## 安倍首相の「70年新談話」による 歴史の改ざんを許すな



2月11日、NHKニュースはワイツゼッカー元ドイツ大統領の死亡と戦後40年の演説を放送した

## 全国縦断 報告 学習講演会

1月は中国ブロック、四国ブロックで、2月は関東甲ブロックで全国縦断学習講演会が開催されました。みなさんのご協力で、昨年7月からの全国縦断学習講演会は成功裡に終了しました。感謝を申し上げます。

### 中国ブロック

## 大国に囲まれた平和の生きる知恵—ラオス大使を迎えて—

中国ブロックの全国縦断学習講演会は、1月17日、岡山市内の岡山国際交流センターでひらかれました。広島をはじめ鳥取、岡山などから約70人が参加しました。

第一部では、ラオス人民民主共和国特命全権大使ケントン・ヌアンタシン氏が、「日本とラオス、その可能性について」と題して講演。中国、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーなどに囲まれ、人口約650万人、領土は日本の本州と同じくらいという小国が生きていくすべは、平和共存・内政不干渉を堅持し、周辺国や日本からの投資を受け、開発を進め、観光資源を活用していくと語りました。

第二部は、日本 AALA 常任理事の田中靖宏氏が「世界の地域機構とアジア新秩序」と題して講演。田中氏は、世界のなかでアメリカの力が相対的に低下していることを指摘しました。その上で、軍事から非軍事への流れが進み、富の源泉が土地から交易に移って相互依存が深まり、戦争が割に合わなくなることで主権国家同士の戦争は激減し



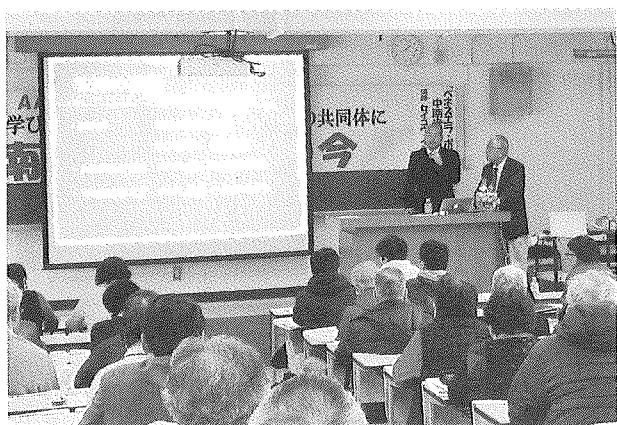
ていると分析。そして、EU、中南米、ASEANなど外部に仮想敵を持たない、内部に盟主関係を持たない、社会体制の違いを問わない地域共同体が世界の流れとなっている現状を明らかにしました。

講演のあとは場所を変え、2人の講師と通訳を交えて懇親会をおこないました。これには、広島の8人を含め23人が参加。和やかなひとときを過ごしました。

(岡山 AALA 事務局長 三戸康生)

### 四国ブロック

## 「国際友好ツアーはベネズエラへ」の声もあがる



愛媛での全国縦断学習講演会は、1月24日、愛媛大学を会場にして開催されました。さまざまな会議や春闘のとりくみなどで、参加を希望していながら不参加になった人もありましたが、97人が参加しました。講演会は、参加者のほとんどから大きな好評を得て成功させることができました。

ベネズエラの全権大使のラテンアメリカの現在や、新藤氏が語った ASEAN の現状は、参加者の大きな興味を呼び、もっと深く知りたいなどの声もありました。四国では愛媛だけの開催で、ほ

かの三県との共催が叶わない現状がありますが、世界に目を向けて日本のいまを知ることの大切さを確認し合った講演会になりました。

この講演会には、遠く鳥取から、夫婦での参加があったこともうれしいことでした。また県内の六市から会員・読者内外の参加があり、会員1人、読者4人の申し込みがありました。新聞でも報道

されました。

ポリール・ベネズエラ大使館からのパンフレットや美しいボールペンのプレゼントも参加者に大変よろこばれ、今年の愛媛の国際友好ツアーはベネズエラにしようという声も上がっています。さてどうしましょう。

(愛媛AALA事務局長 山本 翠)

## 関東甲ブロック

# 平和の共同体から中国、「イスラム国」問題まで解明



2月7日、東京の日本青年館で、関東甲ブロックの全国縦断学習講演会が開催されました。講師は、日本共産党副委員長で国際委員会責任者の緒方靖夫氏でした。栃木、茨城など5都県から参加があり、もりあがりました。

緒方氏は、最近のブラジルやチリ訪問を含め100カ国も歴訪した経験も踏まえ、世界が地殻変動を起こしていると切り出し、先進国と中国や発

展途上国の数値をあげて解明。同時に、中国とアメリカが新型の大型大国関係を形成し、ともに世界を管理しようとしていることを指摘しました。中国には、大国にふさわしい役割を果たすことを要求し、中国について解明しました。

さらに、ブラジルとチリでの経験からCELACについて5点の特徴をあげ、ASEANなど2つの共同体について詳しく説明。また、「イスラム国」がなぜ生まれたのか、ウクライナ問題とソ連の思惑なども解説しました。

緒方氏は講演のなかで、日本AALAの歴史や運動、とくに「国際シンポジウム」や「国際署名」の重要性にも言及しました。いまは日本AALAの出番、AALAの活動はおもしろく、入会しないと損をするなど激励の言葉もありました。中国問題を中心にたくさんの質問がありましたが、緒方氏は1つひとつ丁寧に回答しました。

緒方氏をかこむ懇親会では重要な女性組織の会長さんが入会しました。(文責・編集委員会)

## 本の紹介

### つながる9条の絆

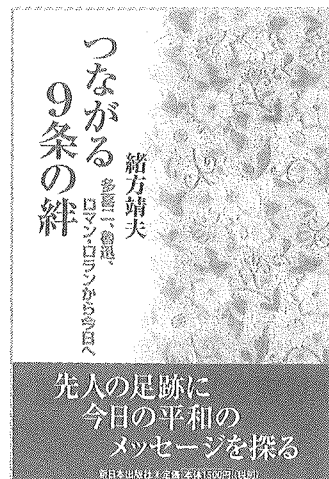
多喜二、魯迅、ロマン・ロランから今日へ

副題に「多喜二、魯迅、ロマン・ロランから今日へ」とあるように、平和・民主主義で奮闘した先人の足跡を、ゆかりのある人物との出会いや豊富な資料でたどりながら紹介。平和や憲法問題でがんばっている私たちをはげまし、運動への示唆や展望を与えてくれます。

(日本AALA 小松崎栄)

\*購入などの連絡先

新日本出版営業部 03-3423-8402



# アメリカ・キューバ国交回復交渉開始

—真の正常化にはなにが必要か—



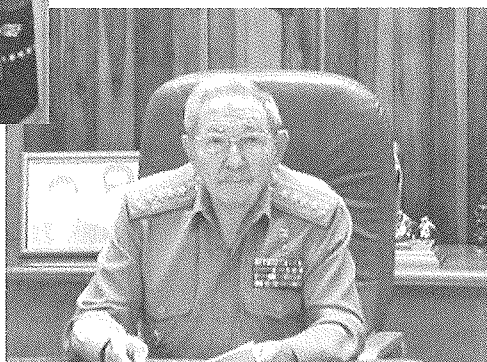
## 1961年に経済封鎖 近年の国連総会経済封鎖支持は アメリカとイスラエル

1961年1月、アメリカのアイゼンハワー政権が、カストロ「共産主義」政権打倒のために一方的に国交を断絶しました。ここには、他国の国民が自主的に民主的な変革、米国からの自立を選ぶことを許さないという、キューバの民族自決権をまったく認めない重大な問題がありました。

引きつづきケネディ政権も、1961年2月、対キューバ経済封鎖を導入しました。この経済封鎖は、当時政治的には大多数の国民の支持を得ているカストロ政権を、経済困難を引き起こして崩壊させる目的だったことを米国の公開文書が示しています。この政策も、キューバの主権を認めない、国連憲章、国際法違反の政策です。近年国連総会でこの経済封鎖を支持しているのは、アメリカとイスラエルだけとなっています。

## キューバをテロ国家と規定 しかし孤立したのは米国

1982年レーガン政権は、キューバをテロ支援国家と規定しました。



昨年12月17日、アメリカのバラク・オバマ大統領、キューバのラウル・カストロ国家評議会議長は、両国政府が国交回復交渉を進めることに合意したと発表しました。同日、両国は信頼醸成措置として諜報員の交換釈放をおこない、オバマ大統領は一連の経済封鎖緩和措置を発表しました。

この歴史的なできごとが意味するものや、今後の展開などについて、新藤通弘日本 AALA 国際委員会責任者が解説していただきました。

バ国内の集会・表現の権利状況の改善を要求しましたが、キューバ側はそれはキューバ国民が決める内政問題だとして反論しました。

またキューバ側は、将来設置された大使館の館員は、ウィーン条約に基づき赴任国の政治制度を尊重し、内政に干渉する活動をしないことを強調しましたが、アメリカ側は明確な同意は示しませんでした。経済封鎖の解除については、アメリカ側は米国議会の権限であるとしつつ、議会に廃止を呼びかけると説明しました。

## 真の正常化は キューバの主権を認めること

こうしてみると、アメリカは今回の国交回復をキューバの民族自決権、国家主権を認めない政策が破綻したことから学び、キューバの主権を尊重するという考えではなく、地域の孤立を避けて、アジア・太平洋地域に力を集中しようという実利主義の考えです。

53年にわたり複雑にからまった両国関係の正常化には、国交回復のあとも長い困難な過程が必要でしょう。経済封鎖の解除とともに、アメリカが不当に居座っているグアンタナモ海軍基地の返還も不可欠です。いずれにせよ、真の正常化はアメリカがキューバの主権を認めてはじめて可能となるでしょう。

アメリカの一方的な尺度で他国を断罪し、キューバを孤立させようという覇権主義的な政策です。

一方でアメリカは、21世紀に入り米州大陸では孤立を深めています。2011年には米国とカナダを除く地域の33カ国が中南米・カリブ海諸国共同体(CELAC)を設立しました。オバマ大統領自身、国交回復交渉開始の演説のなかで「キューバに対する孤立化政策で、むしろ米国が孤立してしまった」と認めています。

## 交渉の内容

国交回復交渉は、本年1月21日から開始されました。交渉は建設的、相互尊重の雰囲気でおこなわれ、移民問題や、不法であれアメリカに到着したキューバ人にのみ即座に居住権を与える、特権的なキューバ人地位調整法(1966年制定)問題などが話し合われました。

翌22日には、アメリカ側がキュー





# 拘束女性を解放せよ

## イラク女性組織の訴え

「イスラム国」の蛮行に衝撃が広がるなか、被害にあっているイラクの女性たちから悲痛な声があがっています。救済運動を続けるイラクの女性団体「イラク女性の自由組織」(OWFI)は、国際的な軍事攻撃もイラク政府の行動も女性の人権を無視していると批判しています。OWFIのウェブサイトから2014年12月11日の声明を紹介します。(日本AALA教宣委員会責任者 田中靖宏訳)

### 女性を戦利品に

2014年6月10日、モスルの町が占領され、イラク女性にとって苦みの新しい章がはじまった。「イスラム国」(ISIS)が、女性を戦利品にする種族の旧習を復活させた。拘束された数千人の女性たちはほとんどが少数派のヤジディ教徒だが、トルクメンのシイア派やセバク教徒、キリスト教徒も何百人かいる。

「イスラム国」への国際的な軍事作戦で、イラクの軍事指導者たちはさらなる軍事行動に走り、各都市への爆撃が盲滅法におこなわれている。それをイラクやクルドの地方政府が賞賛し受け入れている。モスルやラッカなどイスラム国の支配する都市では、5000人以上の女性が奴隷状態におかれ、白昼売り買いされていることに誰も関心を寄せていない。

### イラク政府や 役人の冷たい態度

篤志家たちが「イスラム国」の戦闘員に金を払って100人近くの女性を解放した。だが家に帰ろうとした彼女たちが知ったのは、故郷の族長たちの冷たい態度だった。イラク

政府の役人たちは、優先すべき女性たちの運命に見向きもしない。彼女たちを緊急に保護し一般国民の手で介護しなければならないのにしていない。政府の責任で保護されるべき女性市民が、集団的な性拷問をうけている問題だということがわかっていない。女性を私有財産とみなして、他人の使い古しは役にたたないとする部族の立場から彼らも離れられないのだ。

国際社会もまた分かっていない。イラク政府を支持する族長たちに支配されているようだ。もっと軍事化をすればイラクに平和がもたらされるかのように、武器を供給し、ひたすら爆撃をおこなっている。

### 解放を これ以上待てない

私たち「イラク女性の自由組織」は長い間、女性の密売買に強く反対してきた。しかしいまなお、姉妹たちが性奴隷状態にたえているのを目撃している。彼女たちは解決の見通しもないまま、ただ金銭で解放してくれる個人に従う以外にないのだ。

いまこそ人間の顔をした野獣たちから、性奴隷状態におかれた数千人の女性たちを救い出すときだ。姉妹

たちが性の拷問にたえているのに、「イスラム国」の破壊があるからといってこれ以上待つことはできない。OWFIは可能なあらゆる手段で女性を拘束から解放する方法をみつける。そして族長たちから冷たくあしらわれた女性たちの避難所を開設する。

イラクにおける漫画のような国家建設の11年間、女性たちは保護を受けないまま、辱めをうけ1人ぼっちのまま放置された。

OWFIは、政府が認めようと認めまいと、戦争犠牲者を保護し、力づけ、世話をするモデルを引きつづきつくっていく。

### 人間的で平等な未来に 向けて奮闘する

世界中の平和愛好者たちの助力をえて、社会にたいする現在の攻撃を耐え抜き、人間的で平等な未来のモデルになるよう奮闘していく。

「イスラム国」に屈した国家を支援する諸国よ、恥を知れ。終わりのない宗派間の虐殺よ、恥を知れ。

イラクの自由女性たち万歳、「イスラム国」とその創設者打倒。

全パネリスト決まる

# 5・24 国際シンポジウムの準備が着々と進む

## 参加の働きかけをお願いします

5・24 国際シンポジウムのパネリストは、2月号の段階では5人の方が決まり、紙面で紹介しました。その後、インドネシアの前外務大臣、マルティ・ナタレガワさんから出席の返事があり、これでパネリスト6人全員が決まりました。

また、3役を中心に関係者のご協力も得てコーディネーターや同時通訳、会場関係など運営の準備も着々とすすんでいます。

成功の鍵は、文字通り満席になるように参加者を確保することです。会員、読者のみなさんの参加を心からお願いします。同時に、友人・知人などに参加を働きかけをお願いします。



マルティ・ナタレガワ氏  
インドネシア前外務大臣

1963年3月22日、インドネシアのバンドンで出生

1984年 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス卒業、経済学士  
1985年 ケンブリッジ大学修士  
1993年 オーストラリア国立大学哲学博士  
1993年 外務省に入省  
ASEAN 局長  
2005年 イギリス大使  
2007年 国連大使  
2009年～2014年 ユドヨノ政権下で外務大臣  
イスラム教徒。家族は妻と3人の娘。

### 第46回 学術研究委員会

### 「北東アジア平和協力構想と朝鮮問題」 豊富な資料で語る

日本AALA主催の第46回学術研究委員会が、2015年1月31日、東京都豊島区の東京労働会館で開催されました。

日本共産党国際委員会事務局長の田川実さんが「北東アジア平和協力構想と朝鮮問題」と題して報告をおこないました。日本AALA国際委員会責任者の新藤通弘さんがコーディネーターをつとめました。

田川さんは北朝鮮の現状、6カ国協議をめぐる各国の立場、中国と北朝鮮の関係、そして今後の動きと日本政府のとるべき立場などについて、各国からの発言資料を駆使して詳細に報告しました。

報告を受けたあとの討論では、

参加者から率直な意見・疑問がだされ、また参加者間の意見交換も活発におこなわれました。

参加者は地元東京・豊島区をはじめ、宮城、茨城、神奈川など広範囲にわたり、北朝鮮、北東アジアへの関心の高さをうかがわせました。

北東アジアを安定した地域とするためには、日本で6カ国協議の枠組みを基礎として正しい歴史認識にたち、また核兵器のない世界



にむけた行動をすすめることが求められています。

(日本AALA 理事・事務局 佐川徹二)



**群馬**

**キューバ大使を招いて  
連帯と歓迎のつどい**



群馬 AALA は2月7日、2015年定期総会を開催しました。総会では、前年1年間の活動や諸共同行動への参加などを報告しました。新たな年にとりくむ目標の実現へ、県下で AALA への理解を広めて国際関係組織としての役割を担うことを確認してました。新役員は代表理事に大木俊一、滝沢俊治、吉村駿一、事務局長は石川利二です。

つづいて、アメリカとキューバの「国交正常化交渉開始」を両国首脳が揃って発表したことを歓迎して、第2部で「歓迎と連帯の集い」を企画。マルコス・ロドリゲスキューバ大使が「キューバの最新の現状と米・キューバの国交正常化交渉の展望」と題し、特別にスピーチしました。タイムリーな企画を県内の新聞各社が掲載し、一般の人たちもたくさん参加しました。新たな情勢の変化と世界平和に喫したホットな事件、会員も含めて80人近くが大使のスピーチを聞き洩らすまいと耳を傾けていました。新聞各社は当日の様子も翌日の紙面で報道しました。まさに世界をゆるがす事態をジャーナリズムもしっかり受けとめ、今

**栃木**

**会員 100 人に挑戦  
目標超えてシンポ参加を**

栃木 AALA は2月14日に第11回定期総会をとちぎ福祉プラザに於いて20人の参加でおこないました。

総会に先立ち、日本 AALA 代表理事の小松崎栄さんが「東アジアの平和の共同体とは」と題しての記念講演をおこないました。小松崎さんは世界の情勢は軍事同盟より非核、非同盟、平和や経済で協力する地域組織・共同体の方向に向かっている事を多くの資料で説明しました。戦争を阻止し、東アジアを平和・協力・繁栄の地域にするために、日本 AALA の運動方針で「東アジアの平和の共同体づくり」を提唱したこと、昨年おこなわれた ASEAN 訪問でえたことなど、もりだくさんな内容でした。日本 AALA の運動の重要性が理解できた講演会になりました。

講演を受け総会では、この間の

後の展開を注目していたようです。群馬 AALA の名称と連絡先も各紙に載り、国際的役割を果たしました。米国がキューバの主権を承認すること、経済封鎖の完全撤廃が実現される日を願うばかりです。(事務局長 石川利二)

**愛知**

**シンポジウムに参加希望し  
AALA に入会**

2月8日に総会が開かれ、情勢、2014年活動報告と決算報告、2015年活動方針と予算を承認、決議し、新役員を選出しました。

午後は、中東研究者の尾崎美紀さんを講師に迎えて「ガザ・パレスチナ問題を考える～イスラエルのガザ攻撃から見えてくるもの～」というテーマで記念講演をおこないました。

パレスチナ・イスラエル問題の



活動をまとめと今後の活動が提案され、討論がおこなわれました。そして、①国連でおこなわれる核兵器全面禁止 NPT 再検討会議ニューヨーク行動に代表を送り出すこと②5月の国際シンポジウムの参加者はすでに目標の倍を確保したが、さらに増やすこと。③100人の会員をめざして会員拡大にとりくむこと④「知りたかったアセアン」の普及をさらに進めることをはじめとする諸課題に向けてがんばることを確認しました。

シンポジウムや運動の先頭に立つ役員を選出に当たり、女性役員を含む役員増員の体制を確立することができました。

(事務局長 山根吉春)



歴史、この問題をめぐる世界の変化、そのなかで日本がどんな役割を果たしているかなどがよく理解できました。緊急に企画したのにもかかわらず、27人の参加(非会員15人)があり、近年にない大盛況でした。若い人も何人か参加し、関心の深さが感じられました。

講演後、もっと話したいという10人ほどが残り、熱心に質問をして盛り上がりました。参加者の

1人から、5月の国際シンポジウムに参加したいという申し出があり、入会しました。

(事務局長 新谷清美)

## 埼玉

### 「独立ほど尊いものはない」 駐日ベトナム大使が語る

今年創立40周年の埼玉 AALA は、「2015 新春のつどい」を1月末に開催しました。90人を超える参加者が友好と連帯を共有する和やかな会となりました。

講演ではドアン・スアン・フン駐日ベトナム大使が、ベトナム解放・独立のたたかいへの日本人びとの支援に感謝し、ベトナムと埼玉 AALA の交流を期待すると述べ、「ASEAN とベトナムの現状」を豊富な資料を使って語りました。ASEAN の発足48年、アジアの平和と繁栄という目的実現にベトナムは貢献してきており、加盟10カ国が経済や文化など共同体を目指していること、1975年対米戦争勝利、その後中国との

国境での、またクメールルージュとのたたかいを経てからベトナムの復興と工業化などがはじまり、発展してきたと述べました。南シナ海における中国、フィリピン、ベトナムなどの境界を巡る諸問題は平和的な交渉で解決する立場を表明しました。

午後の文化行事と懇親会では埼玉合唱団の「自由ベトナム行進

曲」などの歌声、在日本朝鮮民主女性同盟のカヤグムの演奏が参加者の連帯と共感を高めました。大使と書記官らスタッフ5人は日本の歌、ベトナムの民謡を歌って喝采を浴びました。大使を囲んで記念写真を撮り、「We shall overcome」を合唱し、創立40周年を意気高く迎える決意を固めました。(事務局長 野本久夫)



## 安倍内閣の暴走に反対する連続行動

### 3/8 (日) 「NO NUKES DAY」

13:00 大集会 日比谷野外音楽堂 15:00 国会前大集会

### 3/22 (日) 「安倍政権 NO ! ☆ 0322 大行動」

13:00 集会 日比谷野外音楽堂 14:00 国会包囲行動

わたしと 70

AALA

日本AALA事務局  
中村恭子

### いまこそ平和力を！！

「第2次大戦が起こったなら、第3次大戦が起こっても不思議ではない」と、いつも戦争への恐怖に震えていた子ども時代。学びがその恐怖をたたかう勇気に変えてくれた。一つは日本国憲法の存在。

一つは核兵器廃絶への世界的なたたかい。一つはアジア、アフリカ、ラテンアメリカの国々が世界政治における影響力を高めているということ。

今回の「イスラム国」による人質テロ事件は絶対に許せない。だけど「対テロ戦争」では結果的にテロを拡大させただけ。報復の連鎖を断ち切りこの問題を解決する真の力を持つのは、軍事力ではなく平和力だと思う。平和の力でもめごとの解決をすることに挑んできたのが戦後の世界なのだろう。

その一つが ASEAN だ。1967年にはじまってから実に年1000回もの会議をくり返してきたとい

うのには驚かされる。平和は一夜にしてならず。先人の血のにじむような努力の上に築いた平和は尊い。

その ASEAN に学び、東アジアでも平和の共同体をつくっていくという AALA の新しい挑戦がはじまった。安倍さんはこの機に乗じて戦争をしたがっている。そんないまだからこそ AALA の挑戦の意義はいっそう大きい。この挑戦は近く世界の平和運動と合流し平和の流れを大きく前に推し進める力になるだろう。息の長いたたかいになる。そのはじまりに、微力ながらも関わったことは私にとって誇りだ。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA  
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4階  
電話：03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>  
FAX：03 (3357) 6255 E-mail：info@japan-aala.org  
振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円(送料62円)